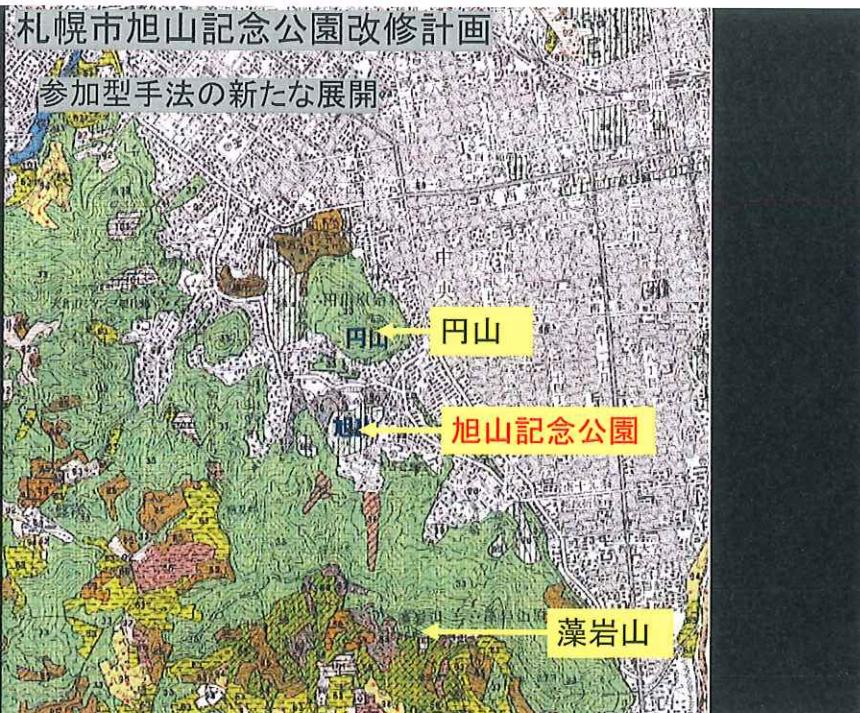


新嵐山スカイパーク 自己ごと化会議 第3回用資料

2023年2月5日

高野ランドスケーププランニング株式会社
金清典広



新しい公園づくりのための
実験的な取り組みとして・・・

「意見を言う・要望を聞く」だけでなく
「市民と共に議論を深め行動に結びつける」
→ 情報をオープンにする
→ 市民にプランニングプロセスを体験してもらう



市民が主体的に関わるきっかけとして
市民立案のプロジェクトを開く

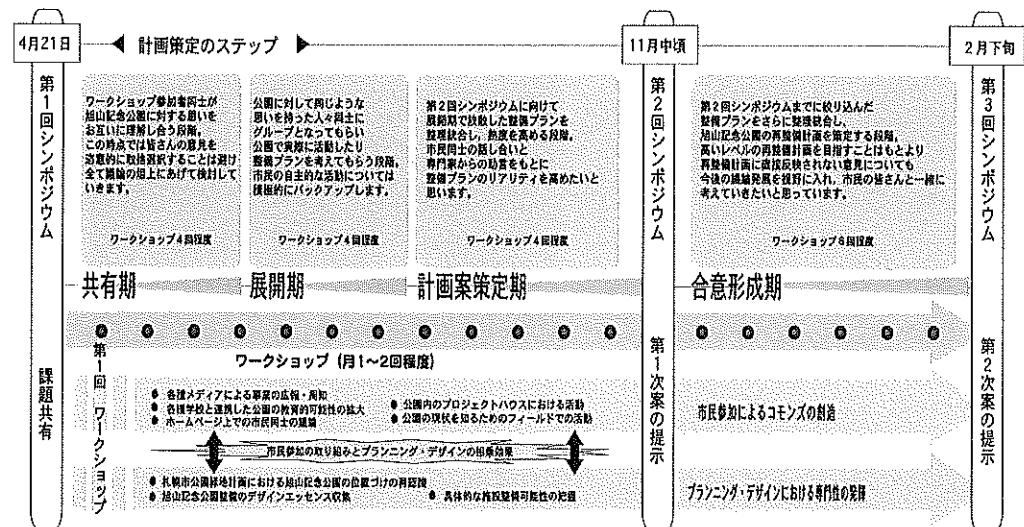
市民中心の話し合いプロセス

- ・市民とともに学んでいくという姿勢
- ・市民と行政のパートナーシップ形成
- ・整備後の公園と市民との継続的な関わり

↓
市民参加によるコモンズの創造

計画策定のステップ

3回のシンポジウムと4段階のワークショップ



プロジェクトのコンセプト

- ① 市民参加により計画を進め、そのプロセスを公開し、十分な議論を重ね創造していく。
- ② 豊かな自然環境を活かした、地域の文化をはぐくむ場を創出する。
- ③ 市民の記念植樹や、その他の樹林地育成をあらたに見つめ直す。
- ④ 少子高齢化社会への対応と、ユニバーサルデザイン化への取り組み

市民参加のための多様な取り組み

- ① 公園を取り巻く様々な課題について議論を深めるためのワークショップを2週間に一度開催
- ② 議論の経過報告及びデザイン案公開のためのシンポジウムを年3回開催
- ③ 旭山記念公園内のプロジェクトハウスにおける活動
- ④ 各種メディア、ホームページ等による事業の広報・周知
- ⑤ 各種の学校と連携したフィールドの持つ教育的 possibility の模索
- ⑥ 現地における実践型ワークショップの実施
- ⑦ 専門家としての調査資料、技術的検討結果公開とデザインの可能性の提示

各種の学校と連携した フィールドの持つ教育的 possibility の模索

- ・ 北海道大学の大学院生が
旭山記念公園再整備プロジェクトを
題材に研究

市民参加・コミュニティ論
市民の森のあり方について

- ・ 札幌高等専門学校の関わり
- ・ 周辺小学校(緑が丘小・伏見小)の関わり

- ① 公園を取り巻く様々な課題について
議論を深めるワークショップを開催



7月17日
第5回
ワークショップ
～まわりの公園を
見渡してみれば～

ワークショップで話し合ったテーマ

- 「私はこれをつくりたい、こんなことしたい」
- 「プロジェクトからアクションへ～一押し企画の提案～」
- 「旭山記念公園再整備のコンセプトを語る」
- 「まわりの公園を見渡してみれば…」
- 「旭山の自然環境とどう向き合うか」
- 「園路を中心とした今後の整備」
- 「記念植樹を考える」
- 「犬の問題を考える」



市民によるプロジェクトの展開

第1回ワークショップにて
これから旭山記念公園再整備に向けて
様々なプロジェクト(企画)を出し合った。



市民から寄せられた プロジェクト（一部抜粋）

- ・コーヒープロジェクト
- ・インフォメーションプロジェクト
- ・旭山お掃除プロジェクト
- ・間伐推進プロジェクト
- ・樂々お散歩プロジェクト
- ・冒險の遊び場創出プロジェクト

他 46 のプロジェクト

»»» プロジェクトの展開 »»» »»» »»» »»» »

自然環境調査



- ② 議論の経過報告及びデザイン案
公開のためのシンポジウムを開催



4月21日
第1回
シンポジウム





利用パターンと利用者数

昨年10月6日 上部駐車場調査実数・総数461台

滞在時間 10分～20分

展望を楽しんですぐ引き返すタイプ

→ 135台：
29.3%

滞在時間 20分～40分

展望の他、市民の森、噴水などを散策して引き返すタイプ

→ 132台：
28.6%

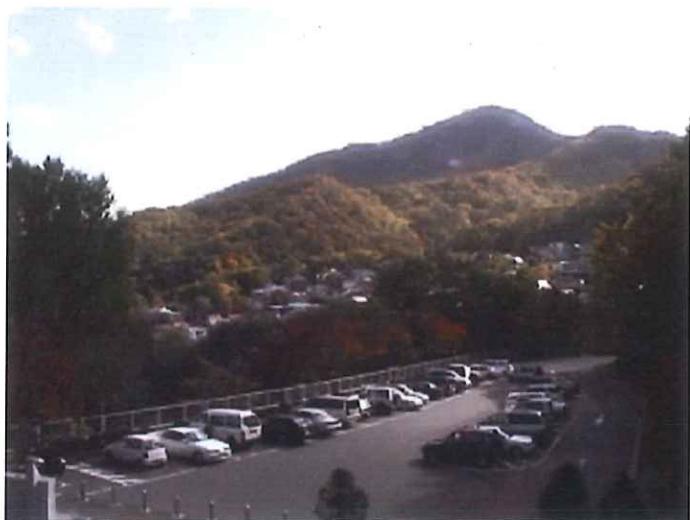
滞在時間 40分以上

じっくり公園利用を楽しむタイプ

→ 122台：
26.5%

専門家による 調査、解析結果の公開

駐車場調査から滞在時間とアクティビティの関係を得る



概して3種類の利用パターン

滞在時間 10分～20分

じっくり公園利用を楽しむタイプ

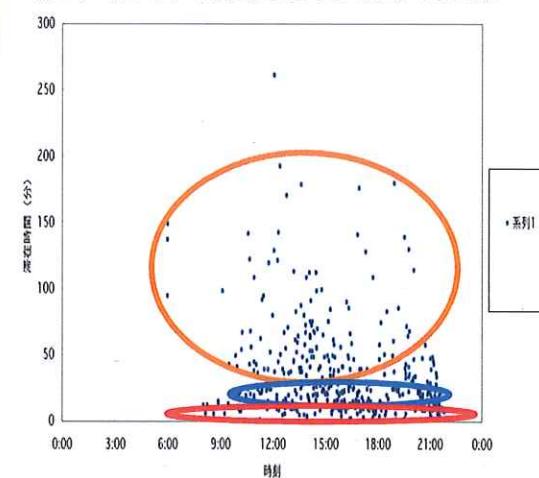
滞在時間 20分～40分

展望の他、市民の森、噴水などを散策して引き返すタイプ

滞在時間 40分以上

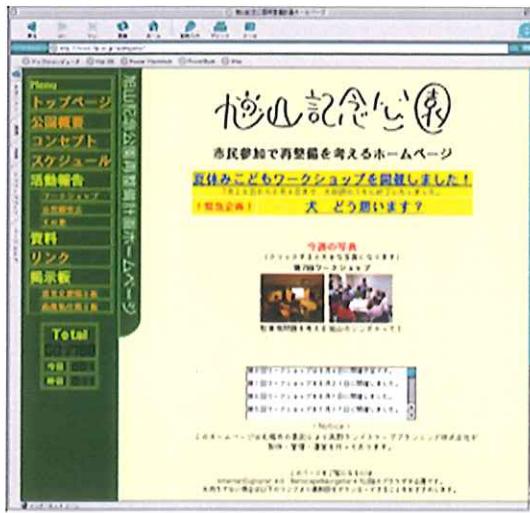
展望台を楽しんですぐ引き返すタイプ

駐車場入車時刻と滞在時間の関係



»»» 各種メディアによる情報発信 »»»»»»»»

ホームページでの情報発信

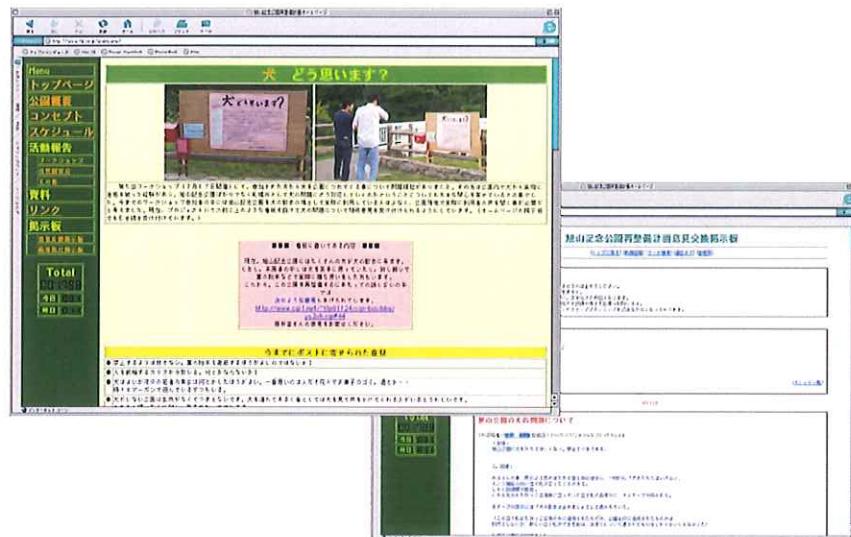


[http://www.tlp.co.jp
/asahiyama/](http://www.tlp.co.jp/asahiyama/)

情報発信と同時に
掲示板上での
市民同士の議論も
行われている。

»»» 各種メディアによる情報発信 »»»»»»»»»»

犬に関する議論



④ 各種メディアによる事業の広報・周知



»»» 各種メディアによる情報発信 »»»»»»»»»

機械報告 七〇

駐車場とシンボルを考える。・・ 第6回ワークショップ

2002年8月21日(水)

これらはワークショップの講義を「どうして」でつなげていく場合には、今まで用ひて来た様な話を、
についてひとつづつ講義を構成し、ことばはあらかじめ伝えていく「事実」の創出をすることが肝要だと考ります。
皆がワークショップでは、皆が現れる特徴と生まれる「事実」の創出を、那都部ワーク
ショップの基盤から見えてきた「山田記念会館のシンボル性」について話し合いました。那田記念会館につ
いて具体的なデザインを示した山田記念会館のシンボル性についても詳しく見ました。シンボル性についてざっくばら
生見を会議として見て、渋谷のイメージを力強く見出していました。シンボル性についてざっくばら
生見を会議として見て、渋谷のイメージを力強く見出していました。

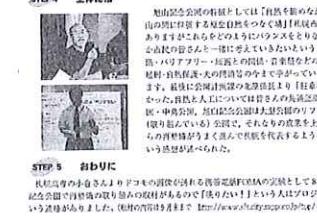


ワークショップの流れ

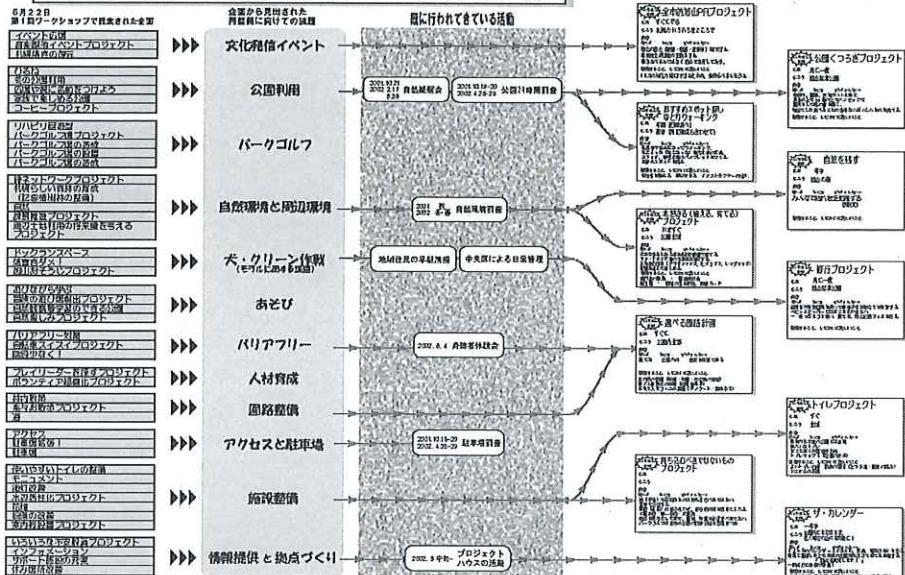
STEP 1 はじめのごあいさつ・スタッフ紹介・これまでの流れの説明



旭山記念公園の特徴として



企画から活動へ(4月から7月1日まで)



③ 旭山記念公園のプロジェクトハウスにおける活動



»»» 各種メディアによる情報発信 »»»»»»»»

プロジェクトハウスでの意見公開



現地型活動

- ・土地の持つ力
現地でしか感じられないものを感じる
- ・人と人との直接のふれあいの場を提供
- ・物のデザインと事のデザインへ



人のつながりをその場所に刻み込んで
いくこと

»»» プロジェクトの展開 »»» »»» »»» »»»

バリアフリー対策プロジェクト



記念植樹検討プロジェクト



»»» プロジェクトの展開 »»» »»» »»» »»»

自然楽しみプロジェクト



»»» プロジェクトの展開 »»» »»» »»» »»»

コーヒープロジェクト



»»» プロジェクトの展開 »»» »»» »»» »»» »

旭山おそうじプロジェクト



»»» プロジェクトの展開 »»» »»» »»» »»» »

おひるねプロジェクト



»»» プロジェクトの展開 »»» »»» »»» »»» »

選べる園路計画



»»» 五感をつかったプログラム »»» »»» »»» »

裸足であるいてみよう



»»» 五感をつかったプログラム »»»»»»»»»

ブラインドウォーク



»»» 五感をつかったプログラム »»»»»»»»»

流しそうめんをたべる



»»» 五感をつかったプログラム »»»»»»»»»

ピザを焼いてたべる



»»» 想い出づくりプログラム »»»»»»»»»

テントでとまる…展望台裏



»»» 想い出づくりプログラム »»»»»»»»»»

裏の都市環境緑地で「虫とり」



総合学習の場としての利用

»»» 緑が丘小学校総合学習の成果 »»»»»»»»»»

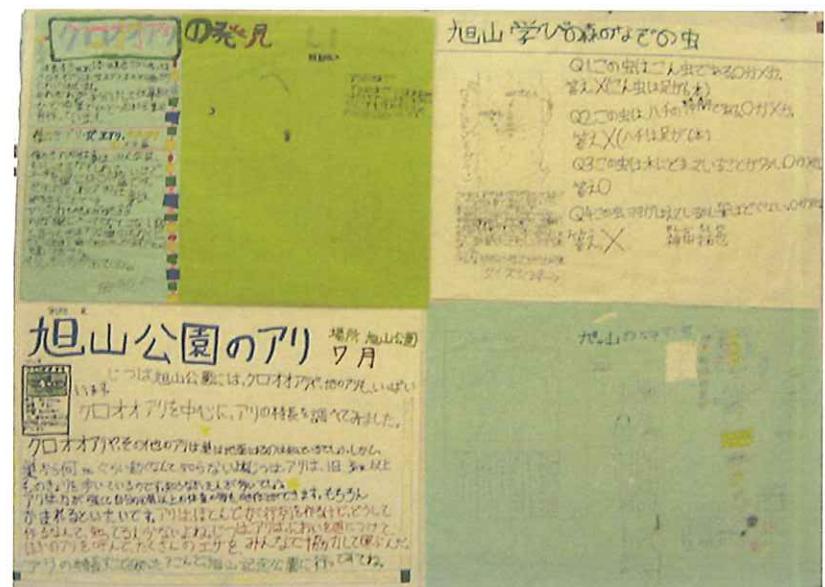


»»» 想い出づくりプログラム »»»»»»»»»»

こどもたちの旗づくり



»»» 緑が丘小学校総合学習の成果 »»»»»»»»»»



公園再整備の先にあるもの

様々な取り組みの中で
ひとりひとりの思いを共有すること
↓
自己実現や居場所づくりにつながる
↓
形として残ることの意味

1) 市民参加の意義と目的

- ・行政等の計画主体が広い範囲の住民を計画のプロセスに巻き込むことでより多くの声をひろいあげよ
りよい計画を策定する。
- ・住民達が問題をお互いの考え方認識することが出発点。
- ・ 計画や影響を予測し理解する
- ・ 利害が対立する場合の意志決定
- ・ 事業後のまちづくりのエネルギー、組織づくりの
きっかけ

公園再整備の先にあるもの

合意形成でなく世論形成を目指す
↓
環境や公園に対する市民意識の醸成
↓
地域全体へ波及していく

1) 市民参加の手法

- ・ 説明会、懇談会方式
- ・ アンケート方式
- ・ ヒアリング方式
- ・ 行動調査方式
- ・ ワークショップ方式

1) ワークショップとは

参加者が共通の体験を通して意見の交換を行い様々な考えを共有してゆくプロセス

2) ワークショップのタイプ

- ・ 情報収集型ワークショップ
- ・ 啓蒙教育型ワークショップ
- ・ イベント型ワークショップ
- ・ デモクラシー ワークショップ
- ・ ものづくりワークショップ
- ・ デモンストレーション ワークショップ

1) ワークショップの特色

- ・ より多くの人の意見を反映することが出来る。
- ・ 計画の当初から参加できるのでより建設的な意見が期待できる。
- ・ 共通の体験を通して意見の交換が出来るのでより現実的なものとなる。
- ・ 出来上がった計画に対してより多くの人が自分の考え方として認識できる
- ・ 計画のプロセスを通して他人の意見を理解することに努めやすい。
- ・ その計画だけでなく、自分たちのまちに愛着を持ち行政に対して理解を深める可能性が高い。

1) ワークショップの課題

- ・流行とファッショナになりつつあるワークショップ。
- ・参加者も十分学習して意見を述べるプログラム。
- ・要求、要望型ワークショップから**主体的行動型**へ。
- ・市民、行政、計画者、デザイナーの果たすべき役割。
- ・行政の主張を明確に。
- ・みんなでやっても出来たものが良くなければダメ。
- ・ワークショップには高度の**専門知識と経験**が必要。

市民参加の成果として参加者が誇り思える最終的な環境、空間、ものづくり。

生き生きとした利用と運営の大切さ。



旭山記念公園ハザードマップ

